

飲み込みにくさを感じたら



常陸大宮済生会病院 外科消化器科医員 熊谷 祐子

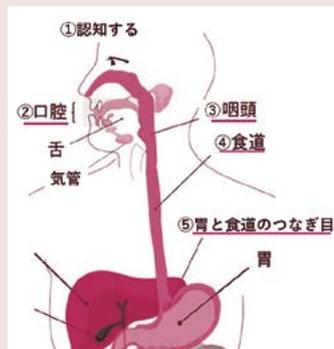
「最近、食べ物が飲み込みにくい」、「のどでつかかかる感じがする」、「のどに違和感がある」、「食事後半になると、食べられなくなる」・・・など食事や嚥下に関する悩みはありませんか？ 食は一生ついてまわる問題で毎日当たり前のように繰り返していますが、楽しみや幸せにもなる大切な時間です。しかし、食物の飲み込みに不安を感じていると、毎日の食事が辛い時間になってしまうかもしれませんね。

漠然とした「飲み込みにくさ」を5つに分け、それぞれの役割と主な原因を見てみましょう。

場所	役割	飲み込みにくさの原因
①認知する(目や脳)	食べ物を見て、嗅いで、食べる準備する	意識低下、視力低下、認知症
②口腔	口に入った食べ物を、歯や舌で細かくつぶし塊にする	歯(入れ歯)の噛み合わせ不良、唾液量の低下(口腔内乾燥)、舌の運動障害、口腔内の感覚低下、食塊の形成不良、味覚障害
③のど(咽頭)	気管(肺)に蓋をして、食塊を食道へ運ぶ(=嚥下反射)	嚥下反射の低下、筋力の低下、神経の障害、できものによる狭窄
④食道	食べ物を胃に運ぶ	運動障害、食道炎、カビの増殖、できものによる狭窄
⑤食道と胃のつなぎ目	胃から食道への逆流防止	食道裂孔ヘルニア(ゆるい)、逆流性食道炎(胃酸が逆流)、できものによる狭窄

まずは困っている具体的な症状をよくお聞かせください。次に、どの場所が原因なのかを調べる方法として、胃カメラ、食道造影検査、CT検査などがあります。検査によっては「受けるのが嫌だなあ」と思うかもしれませんが、早めにご相談いただき、原因と対処方法が分かれば、毎日の不安が少し和らぐかもしれませんね。

当院では言語療法士や嚥下機能評価の専門資格を持つ医師が協力し原因を調べ、個人に合わせた治療方法、食事内容や食習慣の見直しを提案し、治療を行っています。一緒に健康寿命を延ばしましょう！



※救急受け入れの人数を月別に表しています。(休日・時間外を含む)

常陸大宮済生会病院 救急患者受入状況

